草根集

草根集

（非　売　品）

ノートルダム清心女子大学 古典叢書第四回配本「草根集」二 秋冬

昭和四十二年十一月二十日発行

刊行責任者　シスター・セント・ジョン

翻刻責任者　白井たつ子

発行所　ノートルダム清心女子大学 国文学研究室古典叢書刊行会
岡山市伊福町二丁目一六の九
（振替 岡山・七二三）
（電話五二―一一五五）

印刷所　姫路市別所町　岸本印刷株式会社

草根集二　目次

秋 …… 1
冬 …… 139

草根集（秋）

立　秋

三一七九　身にしめてけふとそ告る袖の上の露にはなれし秋のはつ風*

三一八〇　露もみすなにの一葉も散あへぬきのふの風に秋はきにけり*

三一八一　*妖のかせたてるやいつこみそきせし昨日も涼しよもの川浪*

三一八二　まつかえた秋たつ風の乙女子か袖ふる山もけふや涼しき

三一八三　秋もけふたつの市人涼しさをなにゝかへけん袖の初風*

立　穐*暁

三一八四　きてもまた旅なる秋のぬきゝする衣手なれや暁の□*

三一八五　秋の風夢ちさたかに吹こすや暁やみのうつゝなるらん

暁　立　秋

三一八六　わかれつる時をはかへす秋はきぬ去年の長月のつきし曙

三一八七　又やみん秋たつ嶺の暁にあふはわかれの長月の雲*

立　秋　朝

三一八八　朝日影くもる梢に結ひきてはつ秋*みかく露のしら玉*

立　穐*風

三一八九　*妖もけさたつそ鳴なるねくらせし松の嵐吹(ママ)かはるらん*

三一九〇　たゝならぬ夕まくれともまた知ぬ朝けの露に*妖風そ吹

三一八〇　きにけり―来にけり

三一八一　妖―秋　かぜ―風　昨日―きのふ　よもイ　かも

三一八二　よも―かも

三一八三　秋―妖　初風―はつ風

三一八四　立穐暁―立妖暁　秋―妖

三一八五　秋―妖

三一八七　雲―空

三一八八　くもる―曇る　秋―妖　しら玉―白玉

三一八九　立穐風―立妖風　らん―らむ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

立秋*荻

三一九一　荻原やすゑこす風になかは行年のはしめに秋*そ立くる

初　妹

三一九二　一　いかにせんうき秋*風の荻はら*やうつす袂の露のはしめを
三一九三　友そなき四十余のこの山に初風なれし秋もわすれす
三一九四　くるとたに先しらさらむうき秋*を忘れんと思ふ心忘れて
三一九五　三　吹風のこゑそ身にしむ老か吾のうきをもとゝや秋*はきぬらん
三一九六　五　一葉ちりひと花開(さき)て春をつけ秋をしらせし妹はきにけり
三一九七　外面なる桐の一葉を吹風のたよりすくさぬ荻の音哉*
三一九八　露となる風となりてやなへて吾*の人わひさする妹はきぬらん
三一九九　七　本津枝や秋ふかき露もを*かさらむ星合ちかしかちの初風
三二〇〇　人心こゝろやすくや秋のこし夏をはしたふならひなき世に
三二〇一　山かつもあまもいかてか妹*にあひてありしにかはる心なからむ*
三二〇二　庭の面も汀にほのうら風に桐の一葉の舟そよりくる
三二〇三　八　六月やはつ風きかぬ荻みても思ひそ出し秋のをとつれ*
三二〇四　十　法の庭秋*の草木もけふにあひてなき玉結ふ露かとそみる
三二〇五　十一　末遠き小松かうへの千吾*のこゑ秋たつ風を始*とそきく
三二〇六　残　さひしさはいつも秋津*のをのゝ露此ころ草にかは*る色かな

三一九一　立秋荻—立妹荻　秋—妹
三一九二　秋風—妹風　荻はら—荻原
三一九四　秋—妹
三一九五　こゑ—声　秋—妹
三一九六　花—はな
三一九七　哉—かな
三一九八　吾—世
三一九九　をかさらむ—おかさらん
三二〇一　妹—秋　む—ん
三二〇三　をとつれ—音つれ
三二〇四　秋—妹
三二〇五　千吾—千世　始—はしめ
三二〇六　秋津—妹つ　かはる—かわる

初秋*暁露

三二〇七　十二　しの〻めやたもとの露にきえかはるはつ秋*風のまへの灯

初秋*露

三二〇八　一　秋*のきてさそふ嵐*にちる露も一葉の上やはしめなるらん*

三二〇九　二　一葉ちる軒端の桐の下草にふみ分かたき秋*の露哉*

三二一〇　三　*炉もまたをきこそあへね消残る命や露の始なるらん

三二一一　九　秋きての露とや見えん老ぬれは時そともなき袖の時雨を

初秋*朝

三二一二　七　山のはも秋や立くるのほる日の光をいつる風そ涼しき

初秋*朝風

三二一三　五　心あるたくひややかてうちま山またあさ風の秋のさと人

初秋風

三二一四　一　身にしむもありし*にまさる思かなまして四十の*炉のはつかせ

三二一五　二　結ふこそさそは〻おちめ袖の露いた〻く霜の秋の初*風

三二一六　五　音たえす吹上になひく真砂さへ心やすくたく秋のはつ風

三二一七　*炉とたに青葉の山はかはらぬに身にしむ聲のかもの川かせ

三二一八　さ〻分る道ならなくに都人聲さはかしきあきのはつ風

三二一九　七　*炉にふくきそちの風のはふりこもすきまいとはぬ風や涼しき

三二二〇　九　ほのかにも麓のお花雲のなみたつ舟岡の*炉のはつかせ

三二〇七　初秋暁露―初*炉暁露
たもと―袂
秋風―*炉風

三二〇八　初秋露―初*炉露
秋―*炉
嵐―あらし
なる―成

三二〇九　秋―*炉
哉―かな

三二一〇　をき―おき

三二一二　初秋朝―初*炉朝

三二一三　初秋朝風―初*炉朝風

三二一四　ありし―有し

三二一五　初風―はつ風

三二一六　すくたく―くたく

三二一七　*炉―秋
聲―声

三二一八　聲―声
あき―秋

三二一九　風や涼しき―風そ涼しき

三二二〇　なみ―波
はつかせ―はつ風

三二二一　後にこむ冬の心のいそけはやあまり涼しき秋のはつ風

三二二二　十　今もうしみそきにすてしあさちふの残おほかる秋の初かせ

三二二三　なか月のすゑ吹かはり身にさむし涙しくるゝ秋のはつかせ

三二二四　木のもとはいつくをとふも身につるゝ老その杜の烁の初風

三二二五　十一　身にとひて心に秋をしることは風よりはやき朝明の床

三二二六　十二　天乙女引や玉琴烁風のしらへそかよふとを山の杰

三二二七　十四　龝のくる音をそはこふ石見かた松も高津の沖津塩風

初秋松風

三二二八　十　七夕の雲路秋たつことのねに先かよふらし嶺の松かせ

初秋嵐

三二二九　十一　くる秋も分るかおきのはつ嵐ふけは影入閨の三か月

三二三〇　十三　草も木もとふらむ秋の初嵐松そこたふる千世へたりとて

初龝雲

三二三一　十五　夕日影さすかなひくか涼しきは雲のはたての烁の初かせ

三二三二　十四　天津風おちくる袖そしほたるゝ雲の浪分秋や立らん

初秋日

三二三三　十　涼しくもゆふつけて行秋の日の色そ梢のうすき紅葉は

初龝衣

三二三四　一　いつしかに昨日の夏を風かはる衣も烁もへたてゝそおもふ

三二二一　秋ー烁　はつ風ーはつかせ

三二二二　秋ー烁　初かせーはつ風

三二二三　かはりーかはる　はつかせーはつ風

三二二五　秋ー烁

三二二六　とを山ーとをやま

三二二七　龝ー烁

三二二八　初秋松風ー初烁松風　秋ー烁　ね音　先ーまつ

三二二九　初秋嵐ー初烁嵐　秋ー烁

三二三〇　らむーらん　秋ー烁　初風ーはつ風　千世ー千世

三二三一　初龝雲ー初烁雲

三二三二　天津風ー天津かぜ　浪分ー波わけ

三二三三　初秋日ー初烁日　秋ー烁

三二三四　初龝衣ー初烁衣

三二三五　けふも猶昨日のまゝの夏衣かろきやかはる秋のはつかせ

三二三六　二　身にとまる秋の思ひを蟬のはの袖にたまらぬ露のしら玉

三二三七　十一　吹かへしうらめつらしき程もみす衣のすその秋の初風

三二三八　十四　夏衣けさ身にかろく風たちてあさのをからにかへる秋哉

初秋扇

三二三九　五　日をかさね一葉つゝちる木本を秋風たゝむ扇にそしる

初秋雨

三二四〇　八　風ならぬこゑにそ烋をしらせける一葉もおつる桐のはの雨

初秋晩涼

三二四一　九　軒ふかき夕日かくれは山ならぬ家ゐも涼し秋のはつ風

初秋月

三二四二　二　うき雲にほのみか月のまゆ籠いふせくもあるか秋の遠山

三二四三　下荻も初風ならす夕暮に烋をそへたるみか月のかけ

三二四四　五　たちそむる雲の衣の秋風はよそなる月も身にやしむらん

三二四五　七　秋きての草木の上はしらね共月に色つくよものしら露

三二四六　八　烋の色もあるかなきかの三か月の影吹はらふ荻のうは風

三二四七　九　空は猶涼しくなりぬくる秋のはつ風吹て三日の夜の月

三二四八　十三　よひのまの雲の浪ちによる月の舟のりしてや秋はきぬらん

三二三五　猶―なを　昨日―きのふ　秋―烋　はつかせ―はつ風

三二三六　蟬―せみ　しら玉―白玉

三二三七　秋―烋　初風―はつ風

三二三八　十四―ナシ　をから―おから　秋哉―烋かな

三二三九　木本―木の本

三二四〇　こゑ―声　は―葉

三二四一　家ゐ―家い　秋―烋

三二四二　初秋月―初烋月　秋―烋

三二四三　烋―秋

三二四五　秋ての―烋来ての　上―うへ　共―とも

三二四七　秋―烋

三二四八　浪ち―なみち　秋―烋　きぬ―来ぬ

三三四九　九　初秋見月

天川うかひそ出る月の舟あすわたるへき瀬やならすらん

初　秋　荻

三三五〇　七　吹かはる風はありとも荻なくはなにゝか烋の聲をからまし

三三五一　九　秋の聲を聞わく人のためにこそやかてもうけれ荻の初風

三三五二　十　おきのはに入たつ風の心にもうき秋しるや露こほるらん

三三五三　十三　夏過ぬ風ふかぬまの荻のはにとはゝや秋の聲やこもれる

初　秋　薄

三三五四　五　吹みたす岩もと薄うこきなき所もしらぬ秋の初風

三三五五　十一　みたれにしもとの心の花薄又ほにいてむ秋のはつかせ

初　秋　山

三三五六　五　はらふなよすそ野の露の玉匣あくるさ山の秋の初風

山　初　秋

三三五七　七　吹風も山ををしなみくる秋にしられぬ軒の草かくれつゝ

都　初　秋

三三五八　三　時をえて風さへ秋にうつりくる宮古の宿はいまや住よき

岡　初　秋

三三五九　五　烋はきぬ嶺の葛葉の夕嵐おろす岡邊の松にうらみて

三三四九　初秋見月―初烋見月　わたる―はたる

三三五〇　初秋荻―初烋荻　聲―声

三三五一　聞わく―聞ほく　初風―はつ風

三三五二　は―葉　秋―烋

三三五三　十三―十二　過ぬ―すきぬ　は―葉　秋―烋　聲―声

三三五四　初風―はつ風

三三五五　花薄―はな薄　いてむ―出む　はつかせ―はつ風

三三五六　初秋山―初烋山　初風―はつ風

三三五七　くる―来る

三三五八　都初秋―都初烋　えて―得て　いまや―今や　住よき―すみよき

湖初秋

三二六〇　十　から崎や松に吹さへくる秋の色しほしまぬにほのうらかせ

水邊初秋

三二六一　十二　七夕のいそくやいつこ川岸の一葉そはやく舟出してける

行路初秋

三二六二　八　いくさとを過こし袖にかはるらん道行ふりの秋のはつ風

早秋

三二六三　一　わきてけふ身にしみまさるをともなしいつもうき世の秋の初風

三二六四　置なれしたもとの露の身にしむも今さらならぬ秋の初かせ

三二六五　露はらふまた初風も炎ふかく身にはおほゆる老の袖哉

三二六六　たえすうき老の心は去年よりもよはるにまさる秋の初風

三二六七　猶そうき老を心にのとめても身をせめきたる秋のはつかせ

三二六八　露や知思ひしことにかすこえて猶身をしほる秋のはつ風

三二六九　三　咲てちる思ひの色そかはりくる春の一花秋一葉に

三二七〇　都にもたえぬ日はなし久かたの天の川原の秋のはつ風

三二七一　庭たつみ柳のかけの一葉舟こき出てくる炎のはつかせ

三二七二　秋風そわつかにそよくさゝかにの糸もみたれぬ軒の下荻

三二七三　七　にほふなり色を六種に分くれはこと葉の花の秋のはつかせ

三二七四　白露も扇もをきてとる梶にむすひし夢ををくる秋風

三二六三　をと音　初風—はつ風

三二六四　今さら—今更　初かせ—初風

三二六五　炎—秋　おほゆる—覚る　哉—かな

三二六七　はつかせ—はつ風

三二六八　知—しる　こえて—こへて

三二六九　秋一葉に—秋の一葉に

三二七〇　都—宮古

三二七一　なし—なきしイ　天の川原—天河原　かけ—影　炎—秋　はつかせ—はつ風そイ

三二七二　秋風そ—秋風の

三二七三　花—はな　はつかせ—はつ風　をきて—おきて

三二七四　梶に—梶の　をくる—おくる

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

三二七五　みほつくし浪をたつきの山風に一はそしるし秋の舟のり

三二七六　八　秋の水さゝけもちてや年ことに御手洗夜の御戸ひらくらん

三二七七　十　袖にさへ心かはりの炁風に露も草木やうれへそむらん

三二七八　十二　さやかなる夕日させとも時津風西より吹は炁そ凉しき

三二七九　天川またき紅葉の橋守にことゝひわたる秋のはつかせ

三二八〇　ひろき杏の木本ことに一葉つゝ散もいくらそ炁のはつ風

三二八一　残　秋はきて杏のうきさまに聞ゆとも思ひもいれしよもの初かせ

三二八二　西ふけは人の心も凉しきや彼国よりの炁のはつかせ

三二八三　めに見えぬ風はきこえていつく音せぬ露の結ひきぬらん

三二八四　わか心わすれね秋はきにけりとおもふよりこそうきをあつむれ

三二八五　消わひぬうき杏中の哀をもおほくみすくす炁の初風

三二八六　はちすはに露をちらさぬ宿もあらし哀秋きて望月の比

早秋風

三二八七　五　今朝のまに秋をのせくるを舟とや一葉も風の便まちけん

三二八八　炁ははや桐のはおつる軒はとてよそにやはみん梶の下風

早秋荻風

三二八九　五　梢より先しる物や下荻の一葉もちらぬ秋のはつかせ

早秋荻

三二九〇　十三　吹風のをとにしれとは荻のはのいつれの秋か契そめけん

三二七五　みほつくし—みをつくし　一は—一葉

三二七六　もちて—持て

三二七七　心かはり—心かわり　炁風—秋風

三二七九　はつかせ—はつ風

三二八〇　杏—世

三二八一　炁—秋

三二八三　見えぬ—みえぬ

三二八四　おもふ—思ふ

三二八五　杏中—世中　初風—はつ風

三二八六　はちすは—はちす葉

三二八八　は—葉

三二九〇　をと—音

早秋暁露

三二九一　五　いく里のあかつき露にたちぬれて朝戸あけよと秋のきぬらん*

早秋露

三二九二　五　烁の風けさはかくこそはらふらめおなし草木のもろこしの露

三二九三　八　しほれつゝ袖そ待*とる空にして露ふく風の秋のを*とつれ

三二九四　九　わか袖のふるき露のみ消やらて又結ひくる秋にあふかな

三二九五　十　あらためて結ふもしらす露はまたふるき袖とふ秋の初風*

三二九六　十四　花*もは*も草木をかさる露の玉みかきいたせる秋のはつかせ

早秋水

三二九七　十三　光あれや心の泉烁かけてむすひつらぬる玉のことのは*

早秋雨

三二九八　十二　草木にもいたりいたらぬ秋やとれ結ふ露さへむら*雨の空

早烁月

三二九九　十二　風もいま秋たつにしの山のはに雲ま*涼しき三か月の影

早秋朝山

三三〇〇　夏と秋と二かみ山の朝露におきわ*かれてや風も身にしむ

山早秋

三三〇一　八　あふけとやこのかも山の神風に涼しき秋も世*におほふらん

三三〇二　十一　うき雲もいさゝをしなみさはく也深山吹こす秋のはつ風*

三二九一　きぬ—来ぬ

三二九三　待とる—まちとる　をとつれ—音つれ

三二九五　初風—初かせ

三二九六　花—華　は—葉

三二九七　ことのは—ことの葉

三二九八　むら雨—村雨

三二九九　烁月—早秋月　雲ま—雲間

三三〇〇　わかれてや—はかれてや

三三〇一　世—世

三三〇二　をしなみ—おしなみ　はつ風—はつかせ

三三〇三　十二　時しもあれ夏の後せの山風や松に千秋のこゑ向ふらん

都　早　秋

三三〇四　五　秋も先都にきてや吹かはる風の便を四方にたつらむ

三三〇五　わきてけふたちくる風も秋草の花*の都の壁へやとふらん

河　早　秋

三三〇六　三　賀茂川やみそきにすてし麻のは*のかはらぬ色に秋風そ吹

海　早　秋

三三〇七　十一　奥津風(おきつかぜ)西ふく浪*そ音かはる海の宮古も炎*やたつらん

湖　早　秋

三三〇八　十一　塩ならぬ日影のさして行舟も浪*ち涼しきにほの秋かせ

三三〇九　十二　さゝ浪*の音さへ涼し箱根山炎に明行みねの松かせ

田　早　秋

三三一〇　五　露なからわさ田*のほなみかつみえて秋をよせくるふるの山かせ

山居早秋

三三一一　十一　庭の杉*軒のかけひにつたひきて涼しくおつる嶺の秋風

新　秋　露

三三一二　五　見し月も先夏の夜の霜とけて結ふか秋のま砂ちの露

三三一三　炎*はきぬさらはなへての露やをくとへとしら玉うすけ乱て

三三一四　秋*はきぬ去年の草木の夕露も根にかへりしや又のほるらん

三三〇五　花—華

三三〇六　は—葉

三三〇七　浪—なみ　炎—秋

三三〇八　浪ち—波路

三三〇九　さゝ浪—さゝ波

三三一〇　わさ田—わきたさ

三三一一　杉—松

三三一三　炎—秋

三三一四　秋—炎

三三一五　七　やとりをは草とも木とも露やまた思ひさ*ためぬ秋の初*風

三三一六　八　秋もはや草葉吹ほす初風にわか袖たのむ宿の朝露

三三一七　九　袂にそ先うつりくる朝てあらふ露のぬきすの秋のはつ風

三三一八　十三　松たてる本あらの露の玉ゆらにかゝる荻*原秋*そ見え行

新秋荻

三三一九　八　風も猶*のこすか荻の一もとにこ*ゑかる秋のおもふことのは*

新秋日

三三二〇　十一　草も木もまた白露の入日影*炾*に色つく西の山のは*

新秋雲

三三二一　五　天津風今朝や涼しき乙女子か秋の衣の雲のかよひち

新穐雨

三三二二　五　天津風*炾たつ雲や猶もろき一葉のさ*きにおつる雨哉

三三二三　音たつる雨のみ落て一葉たにまたもろからぬ桐の朝風

三三二四　雲さそふ初秋風にふる雨の時雨はそれも木からしの聲*

三三二五　十　うきものとくるをいとひし人ゆへ*や秋も身をしる夕暮の雨

三三二六　十二　風涼し草木を分てくる秋もまた*むら雨の露の下道

新秋雨涼

三三二七　十一　猶涼し雨にたもとをまかすれはぬれての後の秋の初風

三三一五　さためぬ—定ぬ　初風—はつ風

三三一八　荻原—萩原　見え行—みえ行

三三一九　猶—なを　こゑ—声　ことのは—ことの葉

三三二〇　炾—秋　山のは—山の端

三三二二　天津風—天津かぜ　さき—先

三三二四　聲—声

三三二五　ゆへや—ゆへに

三三二六　むら雨—村雨

三三二八　一　わかるへき日数*なりけり手を折てあひみしよりの秋のうきふし
三三二九　行秋はあすの衣の新わたを中にへたつる日数*たになし
三三三〇　むかしみき篠をかさしてまふ人の神をくりせし出雲八重墻
三三三一　あくるまを朝たちかねて暮る日にいつくとまりと秋の行覧*
三三三二　風なから西よりたちし秋なれは入日にかへるところなるらん
三三三三　八　わかさりきいかなる秋の雲つきて冬の紅葉にあすはしくれん
三三三四　十　たゝいまの夕の雲やかへる秋しくれてきえね山のこなたに

九月盡雲

三三三五　三　長月や夕をかけて吹風のめ*にみぬ炑*もかへる雲哉*

惜九月盡

三三三六　一　今はとてわ*かるゝ秋の袖もあらはなをこのくれを引やとゝめん

早涼至

三三三七　七　秋をしる風のあるしといまそなるすゝみなれにし杜の夕陰
三三三八　袖涼し岩*まの水の秋の露風に心をあはせてそちる
三三三九　八　をきやらてとるかはほりもぬるからす身にお*ほゆるや秋のはつ風
三三四〇　十　身にとをる程こそなけれうす衣袖の日影をはらふ秋風

早涼知秋

三三四一　五　いかゝ吹むすひし水に袖ふれて夏なき年の秋のはつか*せ

三三二八　日数―日影数
三三二九　日数―日影〃
三三三一　覧―らん
三三三五　め―目　炑―秋の　も　哉―かな　〃
三三三六　わかるゝ―別る
三三三八　岩ま―岩間
三三三九　をきやらて―おきやらて　おほゆる―覚る　はつ風―初風
三三四〇　を―に　を―〃
三三四一　はつかせ―はつ風

幽栖秋来

三三四二　十一　山風そ昨日にも似ぬ*妖○たにしられしと思*ふ木かくれの宿

三三四三　八　音もせす廬は山の岩かくれ苔路たちくる秋のはつ風

三三四四　十一　尋こん秋たにしらぬ露の宿今朝そひもとく百草の花

風知秋

三三四五　十一　秋の風まつ荻*のはにたちよりて四方の草木につけねとそ吹

風告秋

三三四六　五　秋になる風の初こゑ聞ゆ也のちに一*はのちるはなくとも

三三四七　十二　空ふ*くはしられぬ物と尋きて荻に聲*かる秋のはつかせ

三三四八　十三　たかためにやますも秋をしたふらん木をうこかさぬ秋のはつかせ

三三四九　十四　とことはの心に秋を又告*てたもとにおもる風のしら露

三三五〇　一葉舟うかふや嶺の木すゑより秋を吹こす雲の浪風*

秋風

三三五一　二十　草も木も友にそなひくを*しなへて露と風とに秋や立*らん

三三五二　七　みるま丶にむなしき空の秋の風*さはる聲*なき雲そ身にしむ

三三五三　残　あはらやにすむ山かつのあさてほすはつきの嵐身にやしむらん

秋夕風

三三五四　三　身ひとつの物とこたへ*ん吹風もうきはたれその秋の夕*くれ

三三五五　十一　たえ*すうき此夕くれも妖風の身はのこれとや吹よはるらん

三三四二　妖○たに—秋にたに　思ふ—おもふ

三三四五　荻—おき

三三四六　初こゑ—はつ声　一は—一葉

三三四七　ふく—吹　聲—声

三三四九　告て—つけて　しら露—白露

三三五〇　風—かせ

三三五一　秋風—颯風　をしなへて—おしなへて　立—たつ

三三五二　みる—よる　風—かせ　聲—声

三三五四　こたへん—こたえん　夕くれ—夕暮

三三五五　たえす—たゝす　夕くれ—夕暮　妖風—秋風

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.